

令和4年度第3回木更津市史編集委員会 会議録

1. 会議名 令和4年度第3回木更津市史編集委員会
2. 開催日時 令和5年3月28日（火）午後1時30分～2時45分
3. 開催場所 木更津市役所朝日庁舎 会議室F
4. 出席者 市史編集委員会委員 出席9名
成田篤彦委員長、實形裕介副委員長、谷畑美帆委員、石和田秀幸委員
島立理子委員、川戸貴史委員、大関真由美委員、駒早苗委員、渡辺則行委員
教育委員会事務局6名
廣部昌弘教育長、重城秋子教育部次長、小高幸男文化課長
青柳英明係長、坂口主査、矢野茜主事
5. 議題及び公開又は非公開の別
議題1 『木更津市史』の刊行方法の見直しについて（公開）
報告1 木更津市史編さん部会による活動状況報告（公開）
6. 傍聴人 なし

事務局（青柳係長）

定刻になりましたので、ただいまから本年度第3回木更津市史編集委員会を開会いたします。進行は私、青柳が務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

本日の市史編集委員会は、川戸委員、大関委員、渡辺委員はリモートでのご参加、島立委員は遅れてのご参加となります。

会議につきましては、附属機関設置条例第6条第2項の規定により、成立しております。また、会議は公開で行いますのでご了承ください。

はじめに、成田委員長よりご挨拶を申し上げます。

成田委員長

成田です。年度末のご多用のところ、編集委員会にご参加いただきまして、大変ありがとうございます。先日、部会長会議に出席しましたが、ネット公開の市史編纂について、活発な論議がなされました。後程、事務局から、説明があると思います。

部会長会議では、ネット公開の方向はやむを得ないとの印象でしたが、多くの問題があり、懸念が払拭できないことがございます。しかし、コロナ禍にもかかわらず、皆さまのおかげで、ここまで市史編纂事業が継続し、成果が上がってまいりました。お互いに連絡を密に取り合っ、試行錯誤があるかもしれませんが、問題を解決し、市民に役立つ、市史の完成を願っているところです。

事務局（青柳係長）

ありがとうございました。続きまして廣部教育長より、ご挨拶申し上げます。

廣部教育長

皆さんこんにちは。各委員の皆様におかれましては、年度末、大変お忙しい中、第3回目の市史編集委員会にご出席いただきまして、ありがとうございます。今年度も残りわずかとなりましたが、木更津市史本編につきましては、現在史料編の、古代編の編集を進めております。また、来年度は、資料編の自然編が刊行となります。

私、個人的に、ここ2・3か月で、いくつかの時代の講演を聞く機会がございまして、やはり木更津市、古代はもとより、戦国時代ですとか、近世ですとか、さまざま時代に、貴重な歴史があるなどあらためて感じておりまして、市史編集の重要性を再確認させていただいたところでございます。

新型コロナウイルス感染症の影響で、進捗状況遅れた部分もございすけれども、今後毎年刊行となる予定となっておりますので、ぜひよろしく、ご協力、ご支援のほど、お願いしたいと思います。

本日は、先ほどからもございましたけれども、木更津市史の刊行方法の見直しにつきまして、3月7日に部会長会議を開催させていただいて、さまざまなご意見を頂戴いたしましたところでございます。

本日の会議で、再度ご審議いただき、方向付けをしてもらいたいというふうに思いますのでよろしくお願いしたいと思います。

委員の皆様方には、それぞれお仕事をもちながら、大変なご苦勞おかけしているわけでございますけれども、引き続きお力添えいただきますようお願い申し上げます。甚だ整いませんけれども、冒頭のあいさつにかえさせていただきます。本日はどうぞよろしく願います。

事務局（青柳係長）

ありがとうございました。会議の前に資料の確認をいたします。リモートでご参加の方は事前にメールでご送付させていただいております。会場にお越しのかたは、手元に紙ベースでございますので、ご確認お願い致します。

まず一枚目、表に次第がございます。めくっていただきまして、席次表と、裏面に出席者名簿がございます。

続きまして、表面に議題。裏面に報告事項がございます。別添資料といたしまして、3月7日に開催いたしました部会長会議の主な意見、要望等をまとめたものがございます。

また、同じく別添資料で、報告事項がございます、木更津市史編纂部会の活動状況の報告書を各部会から上げていただいております。

それでは議事に入ります。議長は委員長が務めることとなっておりますの

で、これからの議事進行を成田委員長をお願いいたします。

成田委員長

それでは、議事に入ります。議長を務めさせていただきますが、本日の議題について、事務局の説明をお願いいたします。

事務局（文化課課長小高）

文化課の小高でございます。本日の議題についてご説明いたします。本編の刊行方法につきましては、令和4年12月22日木曜日に開催いたしました、第2回木更津市史編集委員会におきまして、CD または DVD での刊行から、インターネット上のデジタルアーカイブでの公開についてご協議いただき、それを踏まえて、市史編纂部会の部会長会議を開催いたしました。

当日は古代部会長、民俗部会長の二人が欠席されましたが、このうち古代部会からは、代理として石和田委員にご出席いただいております。

部会長会議の結果、木更津市史本編をデジタルアーカイブ化し、インターネット配信して公開することについては、概ねご理解いただけましたが、会議のなかで、部会長の皆様からはいくつかの課題についてご意見をいただきました。ご意見の内容につきましては、本日の会議の添付資料のとおりでございます。特に歴史系部会の部会長からは、著作権への対応や、冊子の刊行についての要望がでました。このうち著作権につきましては、冊子を刊行する場合にも、もともと対応しなければならない事項でございましたので、インターネット配信する際にも注意しながら対応してまいりたいと存じます。

また、冊子の刊行につきましては、初めにデジタルアーカイブをインターネット上に配信し、その後配布先や配布する時期、そして配本方法など、考えながら進めては、というご意見をいただきましたので、そういったご意見を踏まえながら、考えていきたいと存じます。説明は以上でございます。よろしくお願ひします。

成田委員長

ありがとうございました。今、事務局のほうから説明があったわけですが、部会長の会議のほうはインターネットでの公開については反対ではないと、今お話があったように、著作権等の問題などは、解決していかなきゃいけないようなことが非常にたくさんあると。

また、ネットの公開とは別に、紙ベースでの刊行が、必要との要望がございました。

この会議では各部会からのそういった要望を踏まえて、刊行方法の見直しについて、再度協議するというものでございます。今回の議案について、質問やご意見をお願いいたします。

石和田委員お願ひします。

石和田委員

うちの部会長が欠席だったので、前回の部会長会議、代理で出ていまして。皆さんの意見を聞いていて、文字化したものを手元に置いてあるんですけども、中世の部会長の滝川さんのほうから、自治体史の著作権の問題で裁判沙汰になっている場所もあるっていう、指摘がありまして、この前のときには、対応していくということだったんですけども、ちょっと一か月ぐらいたって、今の状況はどんな感じなのでしょう。

成田委員長

事務局のほうお願いいたします。

事務局（小高課長）

中世部会長の滝川さんから、ご意見いただいております。この件については、自治体のほうで皆さんからいただいた原稿等を改変してしまった、というのを原因として、伺っております。それについては、部会長会議でも、事務局としてお話ししましたが。基本的には、執筆者それぞれの方の著作権については、こちらも理解したうえで対応してまいります。それとは別に、市といたしましては、刊行物、編集著作権については、発行する市のほうに帰属するというので、皆さんと市の間で、覚書を交わして対応してまいるといってお伝えしております。

内容について、改変するということは、例えばこの木更津市史を、広報とかで周知したりとか、あるいは講演会などで、二次利用する場合に、このなかからピックアップしたものを、使用させてもらうということで、編集著作権のなかで、その範囲でやらせてもらうということによって、です。ですから、例えば、この間の会議の中で懸念されているような、文章を、大きく変えるのではなくて、対応については、事務局が勝手にするということにはございませんので、そこは慎重に対応していきたいと思っております。

成田委員長

今事務局のほうから、著作権について、説明がありましたけれども、基本的には市史研究で、著者と覚書というものを交わしたと思うんですが、それに基づいて行いますというお話がございましたけれども、これに関して、また、事務局のほうからの説明に対して、ご質問ございますか。著作権の問題についてです。

實形委員

實形です。この問題というのは、安易に考えているんです、事務局は。ここで、市史研究のときの覚書というのは、執筆者全員に周知されていませんから、これから、本編にあたって、改めて取り交わさなきゃならないことになるんです。そこの段階で、いままでいろんなところで問題になっていることと同じこと

が起きてしまう可能性があるということの一つ、言っておきたいと思います。ここで問題になるのは、安易に著作権を譲渡してくれとか、あとは、著作者人格権の行使を求めるような文章は、執筆者は承諾しないと思います。その面は、認めたくえで、利用するにあたって、市は、ある程度ちゃんと利用する範囲と、いうのを、決めたくえで、執筆者との間で、契約を取り交わす形にしないと、けっこういちいちするのは面倒くさいというのが事務局の考えなんですよ。ハッキリ言っちゃうと。ただ、面倒くさいっていうのを端折ってしまうと、ようするに、執筆者との信頼関係が損なわれてしまいますので、まずは著作権については、ちゃんとした取り決めにしないと、書いていただくときに、必ず執筆者の反発が起きますので、そのへんをちゃんとクリアしながら、特にデジタル化するときに、沢山部会長から懸念が出てたと思うんですけど、それは大丈夫ですという形にしない限り、前に進まないと思いますので、そのへんを気を付けていただければと思います。

成田委員長

今、著作権についてご意見がございましたが。この件、事務局のほういかがですか。もう少し具体的に事前に、しっかり、著者と取り交わしておいた方がいいんじゃないかと、いうお話だったと思うんですが。

事務局（青柳係長）

委員のおっしゃってるとおり、著作権の問題については大変重要な問題になりますので、しっかり事務局のほうで、考えて対応してまいりたいと思いますので、よろしく願いいたします。

成田委員長

これから事前に対応していくと、いうふうに考えているということですね。

事務局（青柳係長）

そうです。

成田委員長

そうすると、例えば、市史研究の覚書とは違ったものを、改めて取り交わすということも、ありえるということですか。検討によっては。

事務局（青柳係長）

基本的なベースは市史研究と同様なものになると思うんですが。それとは別に木更津市史本編のほうも取り交わしていきたいと思います。

成田委員長

今の件について、なにかありますか。私のほうからよろしいですか。本編という言葉なんですけど、一番最初におかれた、市史の方針などにはきちっと、解説があるんですけど、本編って言った場合に、史料編も、通史編も、すべて含まれて本編と言っているんですよ。それでよろしいんですね。今、青柳係長が

言ったのは、本編と言った場合は、史編で言えば、総論にあたるということじゃなくて、史料編も全部ということですね。それでよろしいですね。

事務局（青柳係長）

それで、おっしゃる通りです。

成田委員長

わかりました。ありがとうございました。その他、ご質問ございますか。かなり大事なことです。ここはしっかりお話をした方がいいんじゃないかと思うんですが。

大関委員

先ほどの著作権の問題については、實形委員と同じような意見でしたので、一回手を下したんですけれども、ちょっと、別の事も質問しても大丈夫ですかね。著作権のこととも関わると思うんですけれども。デジタル公開をすることで、生じる著作権というものも含めて、今回デジタル部会等を、設置するという、前回もちょっとお伺いしたんですけれども、デジタル公開に関して、専門的な知見をもってる方に入ってもらうってことは、できないんでしょうか。それで、またちょっと意見をちょうだいして、話し合っただけのほうで、この問題はいいのかなというふうにも思っているんですけれども。いかがでしょうか。

成田委員長

デジタル公開に関しての著作権等の専門家にデジタル部会に入ってもらいたいというお話ですか。そういうことではないのでしょうか。

大関委員

そうですね、今たぶんデジタル部会って、各部会から何名かみたいな感じになっているので。

成田委員長

事務局のほういかがですか。いまのお話、大関委員の。デジタル部会に、デジタル公開の著作権に関する専門家を、入れていただければというお話なんです。

事務局（青柳係長）

それも、事務局のほうで、考えていきたいと思います。また、データにするにあたって、業者に委託しますので、業者も含めて、いっしょに考えていきたいと思います。

成田委員長

ありがとうございました。大関委員、いまのお話でよろしいですか。

大関委員

具体的な話になってからでないと、わからないところもあるんですけど。現

在のところは了解しました。

成田委員長

ありがとうございました。そのほかご質問ございますか。

石和田委員

今のデジタル部会なんですけれども。古代が一番最初に史料編を発行するので、そのデジタル部会を、各部会から一人出して、専門家とか、業者の方を交えて、話をするということになると思うんですが。だいたい何月ぐらいに、デジタル部会が始められるかという、その見通しみたいなものを、お伺いしたいんですが。

成田委員長

デジタル部会を設置する時期ですかね。それは何月ぐらいになるかと。特に今年発行しますよね。古代のほうは発行しますので、それについて。

事務局（小高課長）

文化課の小高でございます。今、石和田委員からデジタル作業部会の設置についてお話がございました。前回、部会長会議にもデジタル作業部会について、各部会からお一人ずつ、委員を出していただいて、というお話をしたんですけれども、そもそもこのデジタル作業部会という、設置について考えたときというのは、木更津市史の基本構想を定めるときに、部会設置という課題を出しています。その経緯としては、まず紙冊子を出した後、ウェブ版の木更津市史を出すにあたって、どういった方向で決めるかということで、各部会から人を出してもらってやるということで考えていたんですけれども。もう根本的に、紙冊子を出してから、デジタルアーカイブではなくて、まずインターネット配信してからということになりますので、このデジタル作業部会の位置付けというのが、当初事務局の考えてきたものとは変わってくるんだろうと考えています。

古代編については、来年度さっそく刊行するんですけれども、まずこれについては、古代部会の方々と話をしながら、インターネットにデジタルアーカイブで、ある程度、専門業者にも間に入ってもらって、知識に精通しているかたとも話をしながら、やっていくことになろうかと思えます。

ですから、デジタル作業部会の設置については、来年度すぐということではなくって、そういったことを踏まえながら、設置を考えていくことになろうかと思えます。

成田委員長

そういうことですが、石和田委員のほうはどうですか。よろしいですか。了解ということで。

今、著作権についての、お話がずっと続いているんですけれども。著作権に

ついて他に、ございますか。関連質問等。よろしいですか。

その他について、質問がございましたらお願いします。また、意見でも結構です。ございませんか。

石和田委員

紙媒体で、出すということで、図書館のほうに、それを納めるという話も、前回の部会長会議で出ていまして、近現代のほうから、長期的な視野で50年は少なくとも、活用できるものでなければいけないということで、そういう点で言うと紙媒体で出すというのは絶対必要だということだったんですが、一切、一般の方が、購入したいと思って、それを買いたいと思ったときは、これも出たと思うんですが、堅牢な、厚紙というか、ちゃんとした冊子ではなく、できるだけ簡易型のかたちの本になるということだったと思うんですが。例えば、それというのは、簡易型であれば、一冊あたりの単価は安い、設定の値段になるんでしょうか。

成田委員長

事務局のほうお願いします。

事務局（小高課長）

一応ですね。古代編のほうを参考に出すと、だいたい簡易製本の類ですと、だいたい一冊あたり、数千円ぐらいかなあという、数千円から一万円ぐらいかなと。ただこれが、今度出す、自然編が、ボリュームとしては1400頁になってますので、そうするとまた桁が変わってくるだろうと。この間の部会の中でも、せっかくだから、簡易製本ではなくて、上製本、しっかりしたものが欲しい人が出てくるのではないかとご意見が出たのですけれども、それについて、以前から、編集委員会でもお話していますが、それもオンデマンド方式で出すとかなる場合だと、どのくらいになるか、これについては、まだ、ボリュームによっても変わってくると思いますが、それについてはまだ、専門の、印刷会社とかには、確認はしておりません。

成田委員長

よろしいですか。量によっても違ってくるし、内容によっても違ってくるし、これは私の考えで申し訳ないんですが、史料編だとただデータだけですから、あんまり買う人はいないんじゃないかと思うんですけど。今のお話のようで、ケースバイケースで考えることになるのかなあという、ように思っています。石和田委員のほうはいかがですか。今の答えでよろしいですか。

石和田委員

各部会で、用意している史料は、だいぶ違っているのですが、例えば、データの場合はカラーページが、本にするときカラーページはと、各部会でバラバラになるのでは。

成田委員長

今、紙ベースの出版のお話が、あったわけなんですけど、それに関して他にございますか。

實形委員

紙媒体での刊行方法が、いろいろあると思いますので、それぞれについてを、どのくらいでできるかという、予算の面もあるんですけど。現状ではこの簡易製本は、一応絶対出るというかたちでよろしいと思うんですけど。

その他、歴史系の部会ですと、紙は必須だと思いますので、そのへん、市民は紙いらないと思っているんでしょうかね。そのへんが一番大事になってくると思うので。やっぱり紙はいらない、今の読者たちはおそらく紙は要るって人が多いと思うので、そのへんも踏まえたうえで、近現代の池田部会長からも、出し方っていうのはいろいろあるので、すぐでなくていいので、その時々の木更津市の事情にあわせて、出せる方法を、検討するということですので、現状の読者の方というのは、シニアの方が多いので、手にとって紙で見たいという方が実際には多いので、そのへんの要望を受けて、最終的には、全部予約して、料金いただいてというかたちだと在庫もないというかたちにできますので、デジタル化と並行して、紙での出し方というのを検討していただければと思います。

成田委員長

ありがとうございました。今ご意見があったわけですけども、この間ある先生に聞いた話だと、市史の読者の7割から8割がご老人だと。紙ベースということのを非常に要望されているという話も聞いたわけですけども。一方で自然だと、小中学校の生徒たちも見るから、紙はあまり好まないかもしれませんねえというような話し合いをしたことがあるんですけど。今の事に関して、他にご意見ございますか。紙出版とデジタルと並行出版となると思うんですけど。

駒委員

ほんとに初心者の、質問で申し訳ないんですけど。紙媒体で簡易製本と、きちんとした形と、もちろん部会によって金額違うとあったんですけど、例えば、どなたかが欲しいと言って、それを印刷しましょうといったときに、売りますよね。紙媒体で本にして、それを欲しいといった場合に、それは値段を付けて売りますよね。その一冊につき、売れば売るほど赤字になっていくものなんですか。それとも、プラスマイナスゼロになるのか、もちろん刊行数にもよるんでしょうけれども、各図書館に配ったというのもあるんでしょうけれども、今回、的を絞っていった場合、計画的には、予想される金額としては、そんなにマイナスになるものでしょうか。

事務局（小高課長）

刊行方法、印刷の仕方なので、一般に有償頒布か、先ほども話したんですけれども、オンデマンドということで、あとは予約という話があったのですが。基本的にはデータは、PDF 化しているものを、ただ印刷するだけの話なので、その分については、希望者の負担になるのだと。ただ、それにかかわる編集については、予算、もちろんこちらでつくっているのですが、その分はかからないと。ただ、例えば、簡易製本として、図書館に配布するものは、あくまでも、有料ということではないので、市負担になります。

成田委員長

ありがとうございました。そのほか紙媒体の発刊みたいなことについて、ご意見ご質問ございますか。

谷畑委員

紙媒体とかのいろいろな話が出ていて、私が思ったことで、皆さんの話と、話がそれるかもしれないんですけれども、読んでいる方の 7 割 8 割が高齢の方だということで、それは悪いことではないのですが、若い人が読んでくれないというのは困ると思って。若い人が読めるようになにか策を、興味を持っていただけるように、なにか策を考えたほうがいいのではないかと思います。これからそういう若手の人にも興味を持っていただかないと、…がたくさん生じるかと思しますので、なにか話し合いとかできれば、今後いいなと思しましたので、ちょっとだけ発言させていただきました。失礼します。

成田委員長

今、若い人でも、読んでもらえるような市史にする工夫が必要なんではないかというご意見だと思うんですが。どうですか、それも考えないといけないと思うんですが。なにかございますか、それについて。

事務局（小高課長）

今の谷畑委員のご意見、非常に重要な意見だと考えています。そういった部分では、若い世代、若い人たちにも、木更津の歴史や自然、民俗に興味をもっていたきたいという観点から、より広く、利用しやすい方法ということで、デジタルアーカイブの公開ということを考えています。

それとはまた別で紙印刷の場合の活用については、また別な話になってくると思うので、こちらとしても市史編纂事業自体、広い世代のかたに、木更津の魅力を知ってもらおうということで、進めているものなので、どういった方法がいいのかは、考えていかなければと思っております。

成田委員長

そのほか、紙媒体について、ご意見がございましたら、お願いします。

大関委員

紙媒体というところよりも、谷畑委員の発言を聞いて、ちょっと感想めいたことなんですけれども、若い人に興味を持っていただくということにも関連するんですが、学校教育でお使いになるような話もあったと思うんですけれども、せっかくなので、学校教育以外にも、例えば、出した市史を使って、ということができるとかというようなことを、講座であったりとか、他の発信方法はいろいろ考えられると思うんですけれども、出した後まで考えて、つくられるようなかたちにできるといいのかなと思っているのですが、というような、ただの感想なんですけれども。

成田委員長

ありがとうございました。出したあとまで有効に使えるようなことも考えていきたいと思いますという、大事なことだと思いますが。そのほかございますか。それでは紙媒体の発刊と、以外についてなにかご意見ございますか。

石和田委員

また、前回の部会長会議のなかで、言っていた件で、木更津市史の業務に専念できる方を、少なくとも一人置いていただきたいという件ができて、一応、木更津市のホームページとかそういうのを見ると、去年も、今年もそうなんですけれども、会計年度任用職員の方を、文化課さんの配置というか、そういうことで一名採用しているということは知っているんですけれども、市史の業務の専念できるかたっていうのが、本づくりといいますか、そこに長けてる、そういう人、ではないといけないなと思いつつながら、この四月から採用予定になっている、会計年度任用職員の方っていうのは、前年度の同じかたがやるのか、それとも、また新しく選んでいただいているのか、そこら辺をお伺いしたいなと思いました。

成田委員長

主な意見、要望等というのは、事務局から資料として、出されたと思うんですが、その一番下の二行に関わるものということでもいいわけですね。

今年から、そういうかたが入るのか入らないのかということですかね。

文化課内の人員の、配置というか、そういう人事のことに関わってくると思っています。事務局のほういかがですか。

事務局（青柳係長）

石和田委員がおっしゃってました、会計年度の職員につきましては、事務の補助で採用している方でございますので、専門的な知識を持っている方ではございません。部会長会議などで、ご意見がございます、市史の経験のある方や、知識のある方の採用につきましては、木更津市の現状だとなかなか難しい状況ではございますが、それも含めて、任期付きの会計年度、専門性のある職員なども、考えていかなければいけないと思いますので、引き続き人事部門と協

議しながら、係の体制も含めて、検討していきたいと思いますので、よろしく
お願いいたします。

成田委員長

ありがとうございました。石和田委員のほうはどうか、今の回答につい
ては。

石和田委員

すごいなんか、一生懸命やってる、勤務時間外も、古代の編集に、時間さい
ているの、申し訳ないなと思っております。よろしく申し上げます。

成田委員長

ありがとうございました。そのほか、今のような内容について、ご質問なん
なりありますか。

部会長さんたちは、必ずしも本の編集の専門家じゃないので、非常に苦慮さ
れているんじゃないかなと、いうふうには思って、こういう話が出てくるんじ
ゃないかなと、予測はしてたんですが。よろしいですか。

それではないようですので、他のことに関して、ご意見なり、ご質問なりご
ざいますか。

駒委員

部会長会議が開かれたのが3月7日ということで、日が、三週間くらいです
かね、ぐらいしかないので、ここに出た、意見とか要望に関して、いままでお
話を聞いていった感じでは、具体的にその意見や要望にたいして、こうします
とかいう意見ではなく、考えますとか、努力しますとか、方向性でとかそうい
う感じで、どれ一つ具体的に返事ができるものは、今の時点ではできてない
と考えるよろしいでしょうか。

事務局（小高課長）

具体的な話については、新年度に詰めていくことになるかと思うんですけ
れども。この間の部会長会議でも意見がでましたものをひとつずつ踏まえな
がら、著作権の問題とかについては、解決していきたいと思っております。すぐ
にできる話とは思ってないので、これについては、これができましたとお話でき
ないのが現段階での話です。ただこう言った意見を受けて、皆さんの要望にそ
ったかたちにしていく、というのが考えです。それが具体的にはいつ頃、いつ
頃とはできませんけれども、自然編と古代編がでるなかで、そのなかで解決す
べきことはやっていくと。令和5年度中に、公開できるような方向で、いき
たいと思っております。

成田委員長

ありがとうございました。駒委員どうですか、今の回答で。

駒委員

つまり現場のなかで模索しながら、制度を整えていこうという、感じの解釈でよろしいでしょうか。わかりました。

成田委員長

よろしいですか。そのほかございますか。

實形委員

駒委員のことを踏まえてなんですけれども。現状は刊行計画に基づいて、進めてるわけじゃないですか。それにたいしてまず、いろいろクリアしなきゃならないことが多いんですけど、人的配置でサポートしてもらいたいというのが、部会からの意見なので、それがないままだとおそらく、この刊行計画通りに進めていくというのはかなり難しいということで、要望が出てますので、このまま刊行年度に突入してしまうと、現状、古代史のほうが、すごい大変な目にあってるんですけど。それと同じことを他の部会でできるかっていうと、現状ではできないと思いますので、ようするに刊行できないことになってしまいます。それまでに、できることをやるっていうか、できないことはやってほしいと思わないので、できることをやって、前の部会長会議でも、小関部会長が言ったと思うんですけど。検討しますっていうのは検討するで終わっちゃうってことで、そうじゃなくて、できることをやっていていただきたいことですので、前の部会長会議でも、池田部会長がちょっとキレ気味に言ってましたけど、一つ一つクリアしていかないと、かなり厳しくなってますので、そのへんをご理解いただいて、これ以降ですね、次年度以降の刊行計画を、進められるような、もってくる工夫を、ちょっとやっていただきたいということですね。

現状、単年度、単年度で考えていくしかないってことがわかりましたので、そのなかでまずは来年度のうちに、次年度以降にできることをちゃんと、一つ一つ、できるようにしていく、まずは、おそらく夏ぐらいまでにはそれを、ちゃんとしないと、次の年度に間に合いませんので、そのへんを考えていただければと思います。

成田委員長

事務局のほう今のに対して何か、お話ありますか、回答なり。今の件について。

事務局（青柳係長）

實形委員のおっしゃる通り、今は言えないんですけど、新年度でそれも踏まえて、やっていきたいと思います。

成田委員長

そのほかよろしいですか。私のほうからよろしいですか。主な意見要望等の中の、デジタル公開する前の検索やリンク機能を付けられるのかというよう

な、古代部会と考古部会から、上から四番目ですが、古代部会と、考古部会から、検索やリンク機能がつけられるか。漢字ワードでつけられるかということがあったと思うんですが。そのへんはいかがですか。つけられますかね。

事務局（小高課長）

検索機能については、使えます。使えるようにしていきます。どれに検索をかけるかというのは、部会の人たちと話をしながら、作り上げていくことになると思います。

成田委員長

ありがとうございました。そのほかよろしいですか。ネット公開に合わせたような、紙ベースではないような、機能というか、どなたか。

ほかにございますか。私のほうからちょっとこの、主な意見、要望からは外れるのですけれども、部会長会議でちょっと気になったことは、ネット公開について部会委員が知らないのではないかという、ネット公開になるということを知らないのではないかというお話がでたのですが。そのあたりは今、どのような対応を考えておられますか。

事務局（小高課長）

基本的には部会の方々には、部会長を介してご説明をという話をしているのですけれども、事務局としてもこういう方向になりましたっていうことは、お知らせはできるのですが、この間の部会長会議を踏まえて、これは部会長の方々に、各部会のメンバーの人たちには、お話をさせていただきたいと思っています。

成田委員長

今のお話ですと、部会長を通して、全部会委員に、周知するようにすると。いうお話ですね。

事務局（小高課長）

そうですね、部会委員には、この間の部会長会議の結果もお話していただくと同時に、こういう方向、また事務局のほうからも、お知らせということでは、通知はいたします。

成田委員長

通知は出すんですね。

事務局（小高課長）

はい。

成田委員長

わかりました。ありがとうございました。
そのほかございますか。

駒委員

今のお話のことなんですけれども、部会委員に説明とそこで、いろんな意見が出た場合に、吸い上げるつもりはあるのでしょうか。もし吸い上げるとしたら、部会長のほうから、こちらの事務局のほうに、意見として伝えるということでしょうか。

成田委員長

事務局のほうからどうぞ、お願いします。

事務局（青柳係長）

部会長から取りまとめていただいて、意見言っていたか、後、今年是一回しかできなかつたですけど、来年度、部会長会議等開催していきたいと思えますので、その中でご意見いただければと思います。

成田委員長

わかりました。他ございますか。

それでは質問が無いようですが、終了してよろしいですか。

それでは質問が無いようですので、本日の議題は以上です。次にその他報告事項に入ります。報告事項について、事務局から説明をお願いいたします。

事務局（青柳係長）

木更津市史編纂部会による活動報告でございますが、まず令和4年度の部会長、部会委員、調査員、につきましては、令和5年、3月1日時点で、部会長7名、部会委員55名、調査員6名、合計68名、で活動しております。カッコ書きの部分につきましては、兼務の人数も含めて計上させていただいております。

次に各専門部会の活動状況につきましては、別添資料のとおりになりまして、各委員の方々には、事前に送付して目をとおしていただいておりますので、ここでのご説明は省略させていただきます。

成田委員長

ご質問等ございますか。私のほうからなんですけど、民俗部会については、進捗状況の報告が、ありませんけれども。なにか事情等があったのでしょうか。

島立委員

説明させていただきます。民俗部会につきましてはですね。コロナの影響下で、実際のところですね、活動しないまま、来ております。その後、何回か活動をということで、あったのですが、皆さんのところにいって思うんですけども。予算等のことで、活動ができないということで、活動していません。また、和田部会長につきましては、和田部会長はですね、非常にご多忙で、現在部会長会議とかにも、出席できないぐらい、お忙しいということですので、ちょっとこの件につきましては、民俗部会の今後のことにつきましては、来年度以降ですね、事務局と相談して、方向等決めていきたいと思っています。大

変申し訳ございません。

成田委員長

ありがとうございました。その他ございますか。報告事項についてなにかご質問、ありますか。よろしいですね。質問は無いようですので、本日の議事は以上で終了といたします。それでは議長の職を解かせていただきます。本日はご協力いただきありがとうございました。

事務局（青柳係長）

成田委員長、議事進行ありがとうございました。以上をもちまして、第3回木更津市史編集委員会を、終了いたします。

次回の市史編集委員会につきましては、日程が決まり次第、また担当よりお知らせいたします。本日はありがとうございました。

令和5年3月28日

議事録署名人 木更津市史編集委員会
委員長 成田 篤彦